

雑がみ啓発講座 開催報告

講師：浜松発明研究会

リアルな動物オブジェづくり

飛び出す絵本づくり

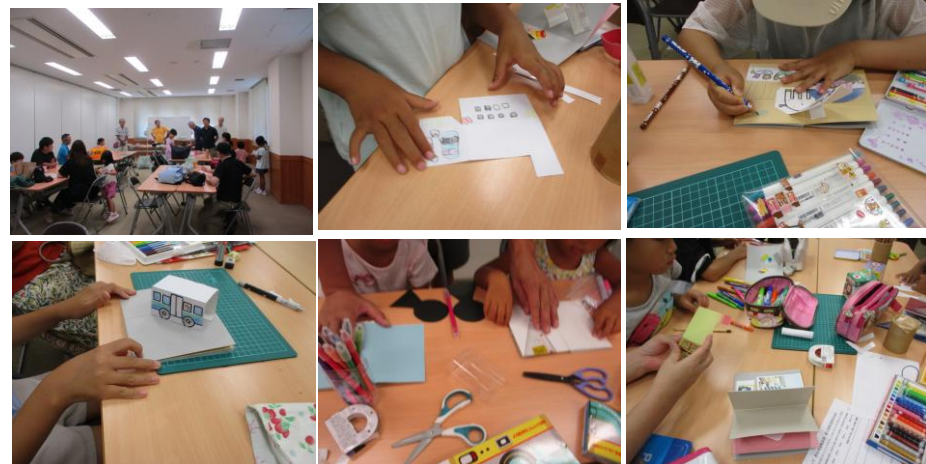
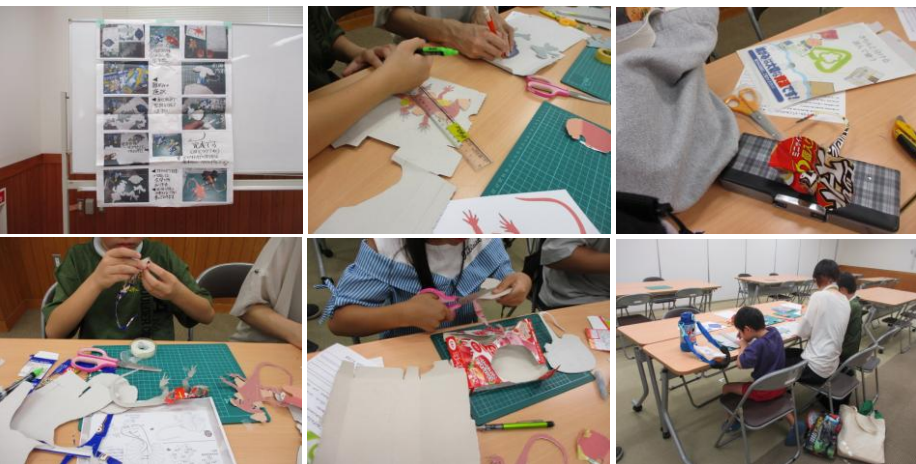
2026年度事業

8/1(土)10:00～11:30 ★参加人数 子ども3名、大人3名

13:00～14:30 ★参加人数 子ども3名、大人2名

8/8(土)10:00～11:30 ★参加人数 子ども7名、大人5名

13:00～14:30 ★参加人数 子ども9名、大人6名



<参加者の様子>

処分される予定のお菓子の空き箱などの雑がみが、工夫次第で立体的な「アオウミガメ」や「エリマキトカゲ」へと生まれ変わる過程に、大人も子どもも熱中していました。

<参加者の声>

- ・ペーパークラフトが好きだから楽しかった。
- ・空き箱でも工夫次第で様々な形にできることが分かった。
- ・パーツを切り取る作業がとても楽しかった。
- ・エリマキトカゲの手を切るのが大変だったが達成感があった。
- ・雑がみは思いのほか厚みがあり扱いが難しかったが、その分利用のしやすさを実感できた。
- ・雑がみの利用のしやすさを実感できた。
- ・途中で細かい作業が多く諦めそうになったが、完成した時は本当に嬉しかった。
- ・単に工作を楽しむだけでなく、『ごみを再利用するアイデア』を親子で共有する貴重な機会となった。

<参加者の様子>

「どうして飛び出すのだろう？」という動く仕組みを学びながら、切る、貼る、色を塗るなどの作業に没頭していました。子どもたちは真剣な表情で、お菓子の箱や雑誌を活用しながら、自分だけのオリジナルストーリーを形にしていました。

<参加者の声>

- ・初めての体験で、作る前からわくわくした。
- ・自分で絵本を最後まで作りきることができて、完成したときは本当に嬉しかった。
- ・大好きなバスや電車が飛び出す、自分だけの絵本ができた。
- ・仕掛けが動く仕組みがよく分かった。
- ・色々な飛び出し方のパターンがあり、動かしてみるのがおもしろかった。
- ・お菓子の箱や雑誌の硬さが、飛び出す仕掛けを作るのにぴったりだと知って驚いた。
- ・身近な廃材を利用して、これほど本格的な飛び出す絵本が作れるとは思わなかった。